

都道府県番号	5
都道府県名	秋 田 県

()

該当する観点にチェックをすること

学校名及び規模

秋田県本荘市立子吉小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	2	0	7	
児童数	31	39	32	39	36	41	0	218	11

実践研究の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究主題 ・ テーマ設定の趣旨 	<p style="text-align: center;">～ 完全学校週5日制の趣旨を生かすために～ 意欲的に学び、確かな学力を身に付ける子どもの育成</p> <p>『意欲的に学ぶ』姿は、「主体的な学習姿勢」と本校ではとらえる。具体的には、自ら課題を発見しようとする、自ら考え・判断し・表現しようとする、自他の考えからさらに考えを高めようとするなどの姿となって現れると考える。そして、情意面として、楽しく、進んで、生き生きと取り組み、感動・驚き・喜び・新たな疑問が生まれることを期待したい。</p> <p>『確かな学力』は、各教科・領域等の学習を通して培うことにより、生涯を通して学び続けるもとになる力である。すなわちこれを「基礎・基本」ととらえる。具体的には、学習により獲得し新たな学習に生かしていくことのできる知識や技能のほかに、自分で広げ深めていく応用力、自己教育力、様々な生活場面で生きて働く力、そして、学習の成立のために必要な関心・意欲・態度であると考えている。</p> <p>このようなとらえの上で、標記の主題を設定し、その達成のために、学ぶことの楽しさや充実感を味わうことができる学習の工夫、わかる授業の工夫、子どもの知的好奇心や興味を喚起し「発見する喜びや驚き」「学びのよさの体験」ができる学習の工夫、主体的な活動が中心となる学習の工夫、話し合い活動を重視した学習の工夫、などに視点をおいて授業改善を積極的に推進することを目指したものである。</p>
--	---

研究の内容について

() 研究体制の工夫

テーマ 「意欲的に学び、確かな学力を身に付ける子どもの育成」

仮説

(1) 教師の協力的な指導により、子どもの多様さに対応する少人数学習を実現することで、主体的な学びが成立し、一人一人に確かな学力が身に付くであろう。

(2) 教科や総合的な学習の時間において、互いに伝え合い学び合う場면을重視することにより、意欲的に学ぶ子どもが育つであろう。

() 実践研究の内容と配慮事項

- (1) 研究の全体構想・研究推進計画の作成及び研究体制の組織
- (2) T Tを機能させた少人数指導の積極的な推進と弾力的な指導体制の確立
- (3) 指導のねらいを明確にした多様な学習形態の工夫と個に応じたきめ細かな指導の実践
- (4) 少人数学習における評価活動の工夫
 - ・評価規準・基準の設定
 - ・座席表の活用
 - ・指導記録簿の活用
- (5) 基礎・基本の確実な習得状況の調査と分析
- (6) 積極的な授業改善と公開授業研究会の実施

配慮事項

・ T T実施学年・教科

教科	実施学年(週時間)	実施理由
算数科	全学年(全時間)	これまでの算数科での成果を生かし、個に応じた多様な学習形態による少人数学習指導の在り方をさらに追究する。
理科	3～6年(全時間)	理科を専門とする教諭を専科とし、学担とのT T指導を行うことにより、観察・実験等で効果的な指導をする。
国語科	1年(8時間)	入門期における学習と生活両面における支援をする。
	3～5年(各1時間)	少人数を他教科へ広げるため、本年度の研究教科でもT T指導を実施し、課題を把握する。
生活科	1～2年(各3時間)	学習と生活両面における指導を行うとともに、個の多様な思いに対応する支援の在り方を探る。
総合的な学習の時間	3～6年(各5時間)	個の多様な思いに対応しながら、体験的活動においてきめ細かな指導をする。

T T指導のための教員配置については、なるべく学年に固定して、子どもの実態を把握した効果的な指導を行うことに配慮して決定した。



低学年部	教務主任、県「少人数学習推進事業」非常勤講師(1名)
中学年部	指導方法の工夫改善に伴う加配(1名)
高学年部	教頭、指導方法の工夫改善に伴う加配(1名) 中・高学年は調整あり

特に、算数科におけるT T指導に支障がでないように配慮して時間割の編成を行った。6学年は、2C4Tによる授業を可能にしている。

() 成果と課題

成果

自己の学習スタイルを選択する学び方は子どもたちに浸透し、課題に取り組む意欲や集中力が向上してきている。

H14 . CRT学力検査【関心・意欲・態度】 ・全学年、前年度よりポイントが向上	少人数学習アンケート(実施:12月、対象:全校児童) ・コース選択学習について [学習しやすい 88%] ・TTについて [学習しやすい 85%] ・算数の学習について [楽しい 78%]
--	---

習熟の段階の充実(一人一人へのきめ細かな指導)による基礎学力の向上が図られている。

H14 . CRT学力検査 【表現・処理】【知識・理解】 ・ほぼ90ポイント以上の通過率	NRT学力検査 [算数偏差値平均] 5年[56.9] 6年[55.8]	学習状況調査 [算数科における 平均通過率](全県比) 4年[+14%] 5年[+9%] 6年[+10%]
--	--	--

評価規準を設定することによって、少人数学習における子ども一人一人の学びの状況を具体的に把握することができ、それにより、一人一人への支援の手立ても明確になってきている。

課題

思考力を高めるための授業改善を推進する。

- ・目的意識や問題解決の意欲を高める支援の多様化

子ども相互の学び合いを通して、確かな学力が身に付く指導方法の吟味

補充的な学習や発展的な学習の充実を図るための教材開発

評価規準の吟味による個に応じた指導と評価の一体化

() 成果の普及について

6 / 7 (金)	研究視察(鷓木小、大川小、川添小より計3名) 「チャレンジ学習」、「授業参観(TTの取り組み)」
7 / 4 (木)	研究視察(六郷小より計3名) 「チャレンジ学習」、「授業参観(TTの取り組み)」
10 / 3 (木)	指導主事要請訪問[国語科](西目小、鶴舞小より計4名) 《協議会の視点》 ・新学習指導要領の趣旨を生かす国語科授業の展開(「読むこと」) ・国語科における少人数学習、TTの在り方
11 / 22 (金)	研究視察(札幌市立東白石小ほかより計2名) 「チャレンジ学習」、「授業参観(TTの取り組み)」
12 / 4 (水)	第1回指定校訪問[算数科] 本荘市・西目町の全小・中学校に呼びかける。 (前郷小、上郷小、新山小、鶴舞小、尾崎小、石沢中より計15名) 《協議会の視点》~効果的な少人数学習・TTの在り方 ・「課題提示のし方」「見通しのもたせ方・コース選択」「コース設定」 ・コース選択能力と自己評価能力の育成
2 / 5 (水)	第2回指定校訪問[算数科]~公開授業研究会~(25校より計45名参加) 本荘市・由利郡の全小・中学校及び全県フロンティアスクールに呼びかける。 《協議会の視点》~効果的な少人数学習~ ・TTの在り方 ・基礎・基本の確実な定着を図る少人数学習の在り方(コース設定、評価等) ・個に応じた補充的な学習・発展的な学習の在り方
3月	研究1年次の成果(研究紀要)の刊行

() その他(特色ある取り組み等)

- ・チャレンジ学習 基礎・基本の定着を図るために朝活動として週1回「チャレンジ学習」を設けている。子どもたちが主体的に問題解決的な学習に取り組めるよう、校長以下全教員の協力体制で、各学級に教員2名で支援に当たっている。